

腎臓内科

2024年度は腎臓学会専門医4名、透析学会専門医3名が在籍して、専攻医3名が専門医研修を受けながら、腎臓内科の診療を行ってきた。

糸球体疾患や尿細管間質性腎炎に対しては、腎生検による病理診断に基づいて、適切な治療方針を決定している。ANCA関連血管炎や難治性ネフローゼ症候群、ループス腎炎など膠原病関連の腎臓病に対しては、診療ガイドラインに準じた治療を取り入れている。

電解質・酸塩基平衡異常は、腎臓疾患以外にも内分泌疾患や薬剤性、中毒など幅広い視点から評価が必要となる。当科では病態を把握して適切な方針が立てられるよう努めている。

近年、増加している慢性腎臓病に対しては、適切な保存期治療が実施されるように、かかりつけ医との病診連携を図り、重症化予防に努めている。また、末期腎不全に対する透析導入（血液透析、腹膜透析など）や透析用アクセスの手術は計画的に予定を組んで、緊急導入が回避できるように心がけている。

外来維持透析患者は、常時約90名の診療を行っており、バスキュラーアクセスの修復（シャントPTAや再建手術など）や、透析関連合併症に対する評価や治療など、当科および関連する診療科と連携を行って対応している。また、当院は精神疾患や結核など感染症に対する隔離病棟を有する透析が可能な施設として、他病院からの依頼にも対応している。

急性腎障害に対する鑑別診断や急性血液浄化療法の適応判断、および、様々な自己免疫性疾患に対する血漿交換や吸着療法など、特殊な血液浄化療法も実施している。

腎臓内科に限らず、高齢化の進行に伴い複数の疾患を有する症例が増加している。地域のニーズに応じて、腎臓内科領域のみならず、一般的な内科診療も提供できるように、努めたいと考えている。

（部長 杉浦 剛）

・医師数 6名 ・専攻医 2名
・初期研修医 1名

（2025年4月現在）

【入院患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新入院	169	176	224	245	322
退院	187	209	254	248	316
延べ人数	4,131	4,204	4,399	4,157	5,486
一日平均	11.3	11.5	12.1	11.4	15.0

【外来患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新来	169	186	163	185	186
再来	3,220	3,421	3,553	3,448	3,621
延べ人数	3,389	3,607	3,716	3,633	3,807
一日平均	11.6	12.3	12.7	12.4	13

【平均在院日数】（単位：日）

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
日 数	22.2	20.8	17.3	15.5	16.2